

令和6年度「学校図書館活用推進事業」実践報告

新潟市立早通南小学校

1 昨年度までの課題

【児童】

- ・図書館の本を読む子どもが限られている。特に、高学年になるにつれ、読書の量や質に差が出ている。
- ・タブレット導入後、図書館の本を使って調べ学習をする機会が減ったため、本を活用した学習の仕方が身に付いていない子が多い。
- ・外部と連携した読書活動が、地域ボランティアによる「読み聞かせ」だけとなっている。

【職員】

- ・子どもの学びを深めるために、図書館を活用したり、司書と連携した授業づくりを行ったりする職員が少ない。
- ・図書館活用の年間計画はあるが、それを基に計画的に授業づくりを行おうとする職員が少ない。
- ・学校全体として、「学習センター」「情報センター」としての図書館の重要性の理解が十分ではない。

2 実践で目指す子どもの姿

- (1) 読書の楽しさを味わわせ、進んで読書をしようとする子どもを育てる。
- (2) 図書館資料を学習や生活に生かそうとする態度を育てる。

3 今年度の実践

(1) 読書センターとして

① 朝読書の実施

- ・毎週金曜日の朝15分間及び読書週間中の5日間の朝15分間で行う。

② 特設コーナーの設置

- ・「教科書掲載の本コーナー」を書架に設置し、児童に薦める。

③ 地域ボランティアによる読み聞かせ

- ・年間18回、朝15分、低学年を中心に、地域ボランティアによる読み聞かせを行う。

④ 図書館に入りたくなる環境づくり

- ・子どもたちに読んでほしい本や新聞などを中心としたタイムリーな掲示板作りを行う。
- ・図書館前廊下に、季節に合わせた「図書館アート」を設置し、子どもを迎える。





⑤ 図書委員会の活動

- ・年1回、読書週間を企画する。
- ・内容は、クイズラリー、お薦めの本紹介など。
- ・クイズラリーは、まず、上学年・下学年に分けて8問ずつ読書クイズをつくり、校内のいろいろな場所に掲示する。その後、子どもたちはクイズの掲示を探し、解答用紙に答えを記入して図書館に提出する。正解数に応じて「プラス一冊券」を渡すこととする。

⑥ 全校読書カードづくり

- ・全校で「お薦めの本」を紹介するカードを作成し、廊下に掲示して友達からも読んでもらう。



(2) 学習センターとして

① 学校図書館年間活用計画の見直し

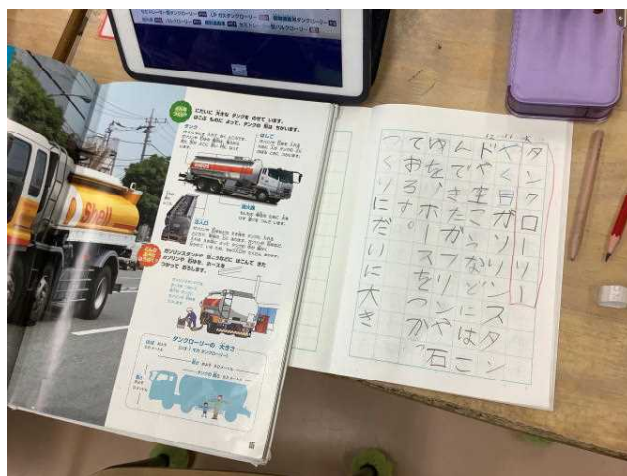
- ・全学年で1枚だったものを，学年で1枚とし，「機能における分類」「図書館に関わる主な学習内容・活動」「参考資料等」の欄を設ける。

② 図書館のオリエンテーション

- ・図書資料の活用力の向上を目指し、年度初めに、全学級を対象にオリエンテーションを実施する。
- ・内容は、本の扱い方、図書館でのマナー、本の配列、ラベルの見方、本の十分類など、学年の実態に合わせたものとする。

③ 年間活用計画に沿った授業実践

〈1年生〉国語「のりもののカードをつくろう」



〈2年生〉国語「自分とくらべて読み，登場人物に手紙を書こう」



〈3年生〉国語「本から発見したことをつたえ合おう」



〈4年生〉国語「未来につなぐ工芸品ー工芸品のみりよくを伝えようー」



〈5年生〉国語「読書の世界を広げよう」



〈6年生〉総合「職業について調べよう」



④ レファレンスサービス及び教室貸出し

- ・年間活用計画に基づき、学習に必要な資料の分類や場所を紹介する。
- ・ブックトラックに本を入れて貸し出し、学年で利用できるようにする。

(3) 情報センターとして

① 学習資料の収集と整理

- ・学年や教科部から要望を聞き取り、収集に生かす。特に、前年度の調べ学習で利用の多かった分野の資料を増やす。

② 新聞コーナーの設置

- ・当日の「朝日小学生新聞」と今週の「読売こども新聞」がいつでも読めるよう、展示台を設置する。要望があれば、バックナンバーへの対応も行う。

③ 公共・他図書館との連携

- ・新潟市図書館支援センターと、団体貸出し、学校訪問、レファレンス（調査・相談）など、必要に応じて連携する。

(4) 中学校区及び外部との連携

① 夏休み図書館スタンプラリー

【ねらい】

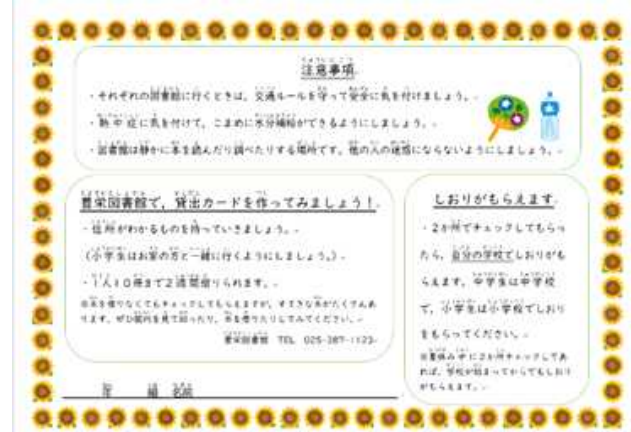
- ・生涯を通してつながっていけるよう、図書館に興味をもってもらう。
- ・中学校の図書館に親しみをもち、中学校での読書活動がスムーズに移行できるようにする。
- ・新しい本に親しむ機会を増やし、読書への意欲を高める。
- ・豊栄図書館で貸出カードを作る機会にしてもらう。

【期間】

- ・早通中学校 7/29（月）～8/2（金）
- ・早通南小学校 7/23（火）～8/1（木）
- ・豊栄図書館 7/23（火）～8/31（土）

【方法】

- ・夏休み中に、早通中学校、早通南小学校、豊栄図書館の三か所を訪問するスタンプラリーを行う。
- ・各図書館でスタンプを押してもらい、その数に応じて景品（しおりやメダル）がもらえる。



② お薦めの本の紹介

【ねらい】

- ・たくさんの本に触れさせることで、読書への意欲や関心を高める。

【期間】

- ・11月～12月

【方法1】

- ・中学校の図書委員が書いてくれたお薦めの本の掲示を廊下に貼り、図書館内に本を展示する。



【方法2】

- ・ 中学校図書館に、小学校の教員が書いた紹介文を本と一緒に展示してもらう。



4 実践を振り返って

(1) 成果

【児童】

- ・ 課題として挙げていた「高学年の年間の目標貸出し冊数（今年度は100冊）」については、1月15日現在で90%の達成率となっている。昨年に比べて読書量が増え、読む本も4類の科学や5類の工業から、9類の文学に変わってきた。
- ・ 各学年で最低1単元は司書と連携した授業を行ったことにより、ブックトラックにあるたくさんの中から必要な本を選び、自分に合った観点でまとめるといった学習の仕方を体験することができた。
- ・ （スタンプラリー後のアンケート結果から）夏休みスタンプラリーに参加したことで、少し大人向けの小説を読む楽しみを覚えたり、行ったことのなかった豊栄図書館のたくさんの本に触れ、読書に親しもうと意欲を高める子どもが増えた。

【職員】

- ・ 学習資料のための本の収集希望が、昨年に増して司書に寄せられるようになった。
- ・ 学年会の際などに、学校図書館年間活用計画を見ながら、司書との連携を模索する職員の姿が見られるようになった。
- ・ 司書への相談や授業への協力依頼が、昨年以上に、職員から寄せられるようになった。
- ・ （職員への聞き取りから）活用計画を基にした授業後は、「学習センター」「情報センター」としての図書館の活用が、子どもの学びに有効であったと感じる職員が増えた。

(2) 課題

- ・ 年1回のオリエンテーションだけでは、図書資料の活用力を付ける時間として十分ではない。図書の時間を計画的に位置付けるとともに、小学校6年間を掛けて伸ばしていくという長期的な視点が必要である。
- ・ 夏休み図書館スタンプラリーは、参加した小学生、中学生、保護者からは好評であった。ただし、低学年には「ひまわりクラブ」に通っている子どもが多く、来館が難しかった。ひまわりクラブとの連携を深め、一日のプログラムに加えてもらい、指導員の監督の下で来館でできるような働き掛けをしていく必要がある。